

1 何が授業改善の実感につながるのか？

授業改善に係る組織的な取組において何が実感につながるのかについて検討しました。皆さんの学校の取組を、次の三つの視点から見つめ直し、自身の取組や学校全体の取組について考えてみてはいかがでしょうか。

【視点①】研究テーマの設定

学校の実態に即した授業改善に係る研究テーマが、教職員間で共通理解されているか。また、教職員一人ひとりの具体的な目標の設定につながっているか。

研究テーマの具体的な内容や目指す生徒の姿を教職員間で共有していますか？

研究テーマを実現するための具体的な授業のイメージはありますか？



【視点②】研究授業に係る取組

研究授業に係る取組において、研究テーマに即した授業づくりのポイントの一貫性が確保されているか。

授業づくりのポイントは教職員間で共有できていますか？

協議の内容に一貫性はありますか？



【視点③】日常の授業への成果の活用

授業改善に係る取組やその振り返りの成果が日常の授業に活用されているか。

気づきや改善点を日常の授業で活用していますか？

活用した成果について、教職員間で共有していますか？



2 効果的な取組の実践事例

調査研究協力校の取組から、実践事例を紹介します！

取組の見直しは三つの視点で行うと効果的です。まずは学校の実態に合わせて部分的・段階的に取り入れていきましょう。

県立茅ヶ崎北陵高等学校

【研究テーマ】①高いレベルでの思考力・判断力・表現力の育成
②主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」の視点）の充実

【視点①】研究テーマを踏まえた授業づくりにつながる取組

各教科で生徒の実態に即したルーブリックを作成することや、講師を招いた授業改善研修会を行うことで目指す生徒像の共通理解を図っています。

【視点②】ルーブリックを用いた授業づくり

世界史 A のルーブリック
生徒が学習の目標を明確に理解できます。
ポイントを明確にし、生徒の学習意欲を向上させる取組につなげています。

【研究テーマ】	ルーブリック評価	2年	3年	4年	5年	6年
		S (とてもよい)	A (よい)	B (ふつう)	C (改善が必要)	自己評価
【イメージマップについて】 「等価主義」について情報をまとめた、それを抽象化、可視化、構造化できる。	Aの基準を満たしたうえで、情報の抽象化、可視化、構造化の工夫を凝らした。	Bの基準を満たしたうえで、情報の抽象化、可視化、構造化の工夫を凝らした。	「等価主義」の内容を整理し、情報を抽象化、可視化、構造化して整理した。	「等価主義」の内容を整理し、情報を抽象化、可視化、構造化して整理した。	「等価主義」の内容を整理し、情報を抽象化、可視化、構造化して整理した。	「等価主義」の内容を整理し、情報を抽象化、可視化、構造化して整理した。
【異質性・コミュニケーション】 グループのメンバーのイメージマップや他のグループの説明を聞いて理解できる。積極的に自分の意見を説明し、伝えることができる。	メンバーの意見や他のグループのイメージマップや他のグループの説明を聞いて理解できる。積極的に自分の意見を説明し、伝えることができる。	メンバーの意見や他のグループのイメージマップや他のグループの説明を聞いて理解できる。積極的に自分の意見を説明し、伝えることができる。	メンバーの意見や他のグループのイメージマップや他のグループの説明を聞いて理解できる。積極的に自分の意見を説明し、伝えることができる。	メンバーの意見や他のグループのイメージマップや他のグループの説明を聞いて理解できる。積極的に自分の意見を説明し、伝えることができる。	メンバーの意見や他のグループのイメージマップや他のグループの説明を聞いて理解できる。積極的に自分の意見を説明し、伝えることができる。	メンバーの意見や他のグループのイメージマップや他のグループの説明を聞いて理解できる。積極的に自分の意見を説明し、伝えることができる。

茅ヶ崎市立北陽中学校

【研究テーマ】学びを実感できる授業づくり ～考え・伝え・創り出す～

【視点①】「しかけ」に焦点を当てた授業づくり

「しかけ」とは、生徒が意欲的に学習するために、教職員が授業の中で行う働きかけのことです。

学習指導案にも「しかけ」を明示しています。

校内研修会でも「しかけ」について共通理解を図っています。



- 7 本時の展開
- (1) 本時目標
○雨温図と地域の特徴を結び付け、その理由を説明しよう
- (2) 研究の視点を踏まえた本時のしかけ (展開内 ① ② ③)
- ① 考える : 分担した写真がどの雨温図と結び付くか自分1人で考えさせる。
 - ② 伝える : 自分がその写真をその雨温図と結び付けた理由を班員に伝えさせる。
 - ③ 創り出す : 班で話し合っって班の答えをつくらせ、シートを完成させる。

県立愛川高等学校

【研究テーマ】生徒の自ら学ぶ意欲を育成するための学び合い活動の充実

【視点②】協議を重ねて授業づくりのポイントを共有

研究授業の参観や研究協議のポイントに一貫性があります。

指導案検討会を2回実施し協議を重ねています。

研究授業

研究協議の分科会では付箋と模造紙を使用して協議。全体会を行い教職員間で共有。



- 授業参観の視点
- <目標> 本時の指導に題材観が生かされていたか、教科等の目標、単元の目標、本時の目標のそれぞれに一貫性をもたせていたか。
 - <展開> 「本時の目標」を達成するための学習活動となっていたか、生徒の言語活動、主体的・協働的な活動は的確に取り入れられていたか、時間の配分は適切であったか。
 - <学習活動、指導上の留意点> 生徒の興味・関心を高める導入の工夫があったか、言語活動の充実や、主体的・協働的な学習の充実が図られていたか。
 - <評価> 「本時の目標」と評価項目と学習内容が一致していたか。



愛川町立愛川中原中学校

【研究テーマ】主体的・対話的で深い学びの授業実践
～身につけさせたい力を明確にした指導と評価の在り方～

【視点②】校内研究会の資料の充実

校内研究会の仕組みが整っています。

校内研究会資料 (項目)

- 日々の授業・良い授業をつくるために
- 校内研究会の進め方
- 生徒インタビューについて
- 授業の記録
- 生徒インタビュー記録
- 個の振り返り
- 交流・共有 1、2
- グループ協議のまとめ (ひな型)

【視点③】教職員が授業改善の取組の成果と課題を把握

研究協議のまとめを校内に掲示。



3 どのように実感につなげるか？

学校全体で組織的に取り組むことが、教職員一人ひとりの実感への第一歩となります。



授業改善の取組については『中学校学習指導要領解説総則編』で以下のように示されています。

生徒に求められる資質・能力を育むために、生徒や学校の実態、指導の内容に応じ、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点から授業改善を図ることが重要である。

文部科学省 2017 『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説総則編』

学校現場では教職員一人ひとりがそれぞれの授業において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいます。この授業改善の取組を、組織的かつ計画的に進めることにより、各学校の教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントにつながります。

**「生徒に育成を目指す資質・能力を身に付けさせることができた」と
教職員一人ひとりが実感することが重要！**

実現するためには…



学校が生徒に育成を目指す資質・能力が何であるかを明確にし、その実現につながる「主体的・対話的で深い学び」を具体的に考え、教職員間で共有する必要があります。

実感は教職員一人ひとりが授業改善の取組を通して得られるものです。そのために、組織的な取組が進められています。現在の学校の取組を更に効果的にするために、まずは学校の取組を見直すところから始めてみてはいかがでしょうか。

今後の組織的な取組に向けて

【視点①】研究テーマの設定

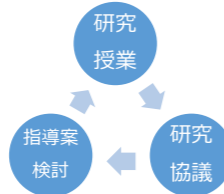
- ・学校の実態と研究テーマのつながりに関する共通理解が不十分である。
- ・研究テーマに即した具体的な授業をイメージすることが難しい。

↓
学校の実態に即した目標を共有した上で、研究テーマを設定する。また、その目標を基に、教職員一人ひとりが具体的な目標を設定する。

【視点②】研究授業に係る取組

- ・指導案検討会で協議したポイントが授業参観の際のポイントと合致していなかったり、研究協議で協議の中心になっていなかったりする。

↓
研究授業に係る一連の取組について一貫性を確保する。



【視点③】日常の授業への成果の活用

- ・研究授業後に、日常の授業の中で、取組の成果を活用できていない。
- ・日常の授業で実践したものの、その結果を共有する機会がない。

↓
研究授業から得た成果を日常の授業で活用する。また、実践した結果を共有する機会を学校全体で計画的に設定する。

教職員一人ひとりが授業改善を実感できる組織的な取組へ



実感につなげよう！ 今、求められる授業改善



学校の授業改善の取組は、生徒や学校の実態の違いにより、それぞれの特徴をいかして進められています。その中で、生徒の変容を教職員一人ひとりが実感することが重要です。では、どのような取組が実感につながるのでしょうか。



1 何が授業改善の実感につながるのか？



2 効果的な取組の実践事例

3 どのように実感につなげるか？